



天然アユ再生に向けた遡上環境改善 活動と遡上環境調査及びアユ漁 文化を継承する体験イベントの開催



事業報告書

令和元年度（2019 年度）アユの遡上補助作業及び遡上調査と体験事業の記録

公益財団法人サイサン環境保全基金 助成事業



非営利活動法人荒川流域ネットワーク



c o n t e n t s

1. 2019年度の遡上補助及び調査活動の概要	①
2. 菅間堰・浅間堰の魚道の流量調整と遡上補助施設の設置作業及び 菅間堰下の魚類相の調査	⑤
●菅間堰・浅間堰の遡上補助施設の設置作業及び 菅間堰下の魚類相調査のまとめ	⑨
3. 田島屋堰(入間川)下流及び中山堰(越辺川)下流での標識アユの 放流作業と遡上効果調査	⑩
●入間川・田島屋堰下流での稚アユの標識放流作業	⑩
●中山堰魚道での映像による遡上調査	⑪
4. 入間川・田島屋堰、豊水橋、笹井堰の魚道の遡上効果調査	⑫
●浅間堰に設置した遡上補助施設についての映像での調査	⑫
●入間川での遡上効果調査のまとめ	⑮
5. 越辺川の中山堰に新設された魚道の遡上効果調査	⑰
●越辺川水系での遡上効果調査のまとめ	⑳
● 2019年度 入間川・越辺川水系の魚道効果の調査結果 MAP	㉓

1. 2019年度の遡上補助及び調査活動の概要

(1) 活動の目的

荒川流域ネットワークの提案により、埼玉県が実施した「川のまるごと再生プロジェクト」事業の中で、入間川水系の7つの堰への魚道設置が実現した。

さらに、2017年から始まった「はつらつプロジェクト」事業で、越辺川と都幾川にある3つの堰に魚道設置事業が進められている。設置された魚道を効果的に活かすためには、遡上効果を調査するとともに、課題がある場合には、アユの遡上を補助するための仮設施設の設置等の活動も必要になってきた。

また、東京湾から入間川・越辺川水系の中上流部に遡上してきたアユを各地域で活かすため、川での漁労文化を復活する活動も必要になってきた。

(2) 実施体制

実施主体：NPO 法人 荒川流域ネットワーク

技術指導：埼玉県魚類研究会 金澤 光

協力：東松山農林振興センター／埼玉南部漁業協同組合／入間漁業協同組合／埼玉西部漁業協同組合／武蔵漁業協同組合

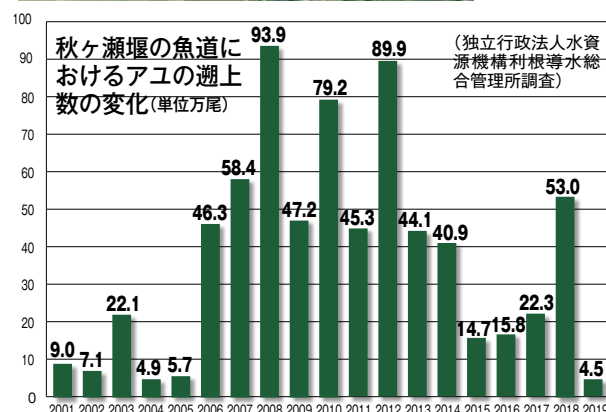
(3) 新設魚道に対する調査の経過

荒川流域ネットワークでは、2009年から2013年まで、入間川流域にある50ヶ所を越える堰等に標識アユを放流して遡上を放流して効果調査を行なった。その情報について、魚道設置事業に対する資料として県に提供した。

2014年からは、「川のまるごと再生プロジェクト」事業で、入間川の堰や床固め工に設置された魚道と遡上補助施設の遡上効果調査を始めた。

2014年度は、設置が終わった寺山堰の魚道と浅間堰の遡上補助施設の遡上効果を調べるため、2,066尾のアユに標識を付け、寺山堰下流から放流。調査の結果、寺山堰と浅間堰の間で7尾の標識アユを再捕したが、浅間堰上流では再捕できなかった。

2015年度は、菅間堰の魚道がスロープの形状で一応の完成をみたが、休むためのプールがないなど、大幅な改修が必要であることが分かり、さらに1年をかけて改修することになった。そこで、魚道に砂袋と石を仮置きして、流速や遡上環境を改善した上で、5月8日・9日に4,462尾のアユに標識を付け、菅間堰の魚道の下に放流した。調査の結果、上奥富堰の魚道の出口と小畔川の合流点で1尾の標識アユを再捕した。菅間堰の魚道について県と改修につい



2008年魚道設置前の増水時の菅間堰左岸の落差状況。落差が大きく、流速も速い

2016年4月に隔壁を付け、改修を終え完成した新設の魚道。上流部に砂袋を置いて、流量調整を実施した



て協議し、新たに17ヶ所のプールを掘削して設けるなど、大改修が行われた。

2016年4月末に菅間堰魚道の大改修が終了したことから、5月1日に堰下へ2,959尾の標識アユを放流した。同日～7日に魚道で調査した結果、122尾が魚道を遡上したことを確認した。その後入間川・越辺川水系で投網等で調査を行なった結果、寺山堰で6尾、関越自動車の高架下流で2尾を再捕した。

2017年度は、入間川に設置された8カ所の魚道の遡上効果の検証を行うため、菅間堰の下流で標識を付け、魚道の最下段のプールに5,079尾放流した。菅間堰下流の生息魚類の生態及び魚道の流量調整し、データ集積も行った。調査の結果、入間川では寺山堰下流で6尾、笹井堰上流で2尾、都幾川では矢来堰の下流で1尾の標識アユを再捕した。

2018年度は、狭山地区の5つの魚道と越辺川の出丸堰に新設された魚道を対象に効果調査をするため、川越橋上流から入間川に14,316尾、出丸堰の魚道下から越辺川に2,690尾のアユに標識を付けて放流した。同時に菅間堰、浅間堰で仮設魚道を設置することにより、遡上環境の改善にも取り組んだ。

調査の結果、入間川では上奥富堰下流で82尾、田島屋堰下流で19尾、笹井堰上流で5尾の標識アユを再捕。都幾川では中山堰下流で5尾、矢来堰の下流で1尾の標識アユを再捕した。

(4) 2019年度の活動計画

2018年の調査の結果、標識アユの多くが上奥富堰下流で再捕されたことから、その上流の田島屋堰下流から標識アユを放流して、上流の矢来堰まで遡上できるか、田島屋堰、豊水橋床固め工、笹井堰の魚道の追加の遡上効果調査を行うこととした。

稚アユの遡上時期には、入間川の菅間堰・浅間堰に仮設魚道を設置するなど遡上環境を改善して、東京湾からのアユを入間川の上流部まで遡上させる活動も実施することにした。越辺川に新設される中山堰の魚道についても遡上効果を調査する。

また、調査を兼ねた地曳網などのアユ漁体験を3河川で開催し、魚捕りのイベントに通して、子供達に川遊びの魅力を体験してもらうことにした。

浅間堰の遡上補助プールと遡上施設(同上)



田島屋堰の棚田式魚道（2015年完成）

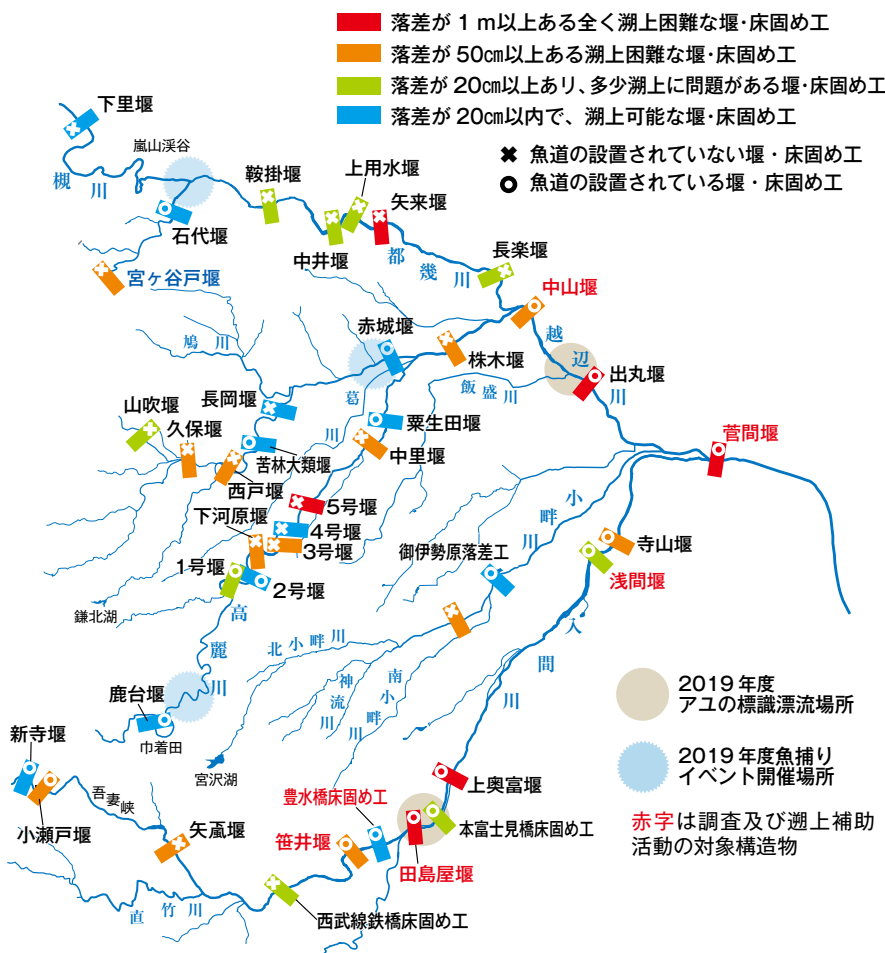


豊水橋床固め工の魚道(2016年完成)



笹井堰の棚田式誘導水路(2016年完成)

入間川・越辺川水系にある堰等と2019年度の調査対象の魚道



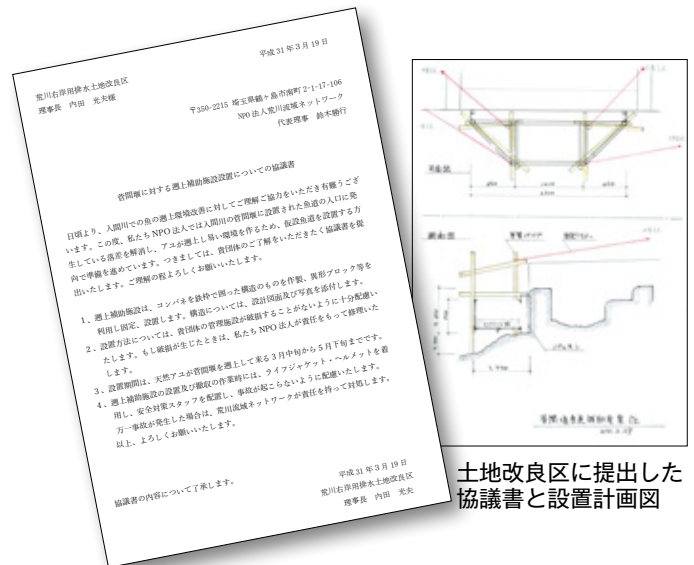
2. 菅間堰・浅間堰の魚道の流量調整と遡上補助施設の設置作業及び菅間堰下の魚類相の調査

● 3月19日(火)／菅間堰への遡上補助施設設置の事前準備

活動時間／ 14:30～17:00

従事者／千葉、鈴木

菅間堰に設置された魚道の入り口に発生した落差を解消するために、自前の仮設魚道を製作し、設置することにした。設置に向け、堰所有者の荒川右岸用排水土地改良区へ「菅間堰に対する遡上補助施設設置についての協議書」を提出し、設置許可を得た。その協議書を持って河川管理者の荒川上流河川事務所入間川出張所に行き、5月末までの河川の一時使用許可を得た。



土地改良区に提出した協議書と設置計画図

● 3月22日(金)／菅間堰への遡上補助施設設置の事前準備

水量／平水 天候／曇り

作業時間／ 10:00～15:00

従事者／山本(悦)、鈴木

3月28日に実施する遡上補助施設設置に向け、単管パイプやジョイント等の固定するための資材を貸借・購入した。製作した遡上補助施設を菅間堰の魚道下に設置するための、現地にある六角ブロック等の鉄筋の固定位置と固定方法の確認を行った。魚道入り口の落差は40cmだった。



魚道の流量状況と遡上補助施設を固定するための鉄筋等の確認作業

● 3月28日(木)／菅間堰への遡上補助施設の設置作業

水量／平水 天候／曇り

作業時間／ 7:30～17:00

従事者／浅井、菅野、千葉、山本(悦)、山本(兄)、鈴木

作製した遡上補助施設をユニッククレーンで魚道近くに降ろし、人力で魚道入口まで運び、単管パイ

プとワイヤロープを使って、六角ブロックや鉄筋に固定した。設置した施設の隙間から水が漏れていることが判明したが、隙間を防ぐ作業を行い、施設内に水が溜まるようになった。施設を設置したことで、落差は約20cmに減少させ、平水時でも遡上し易い環境を作ることができた。魚道上部にも、魚道内への流入量が多くなり過ぎないように、砂袋と板を組み合わせて、仮設の越流防止壁を設置した。



ユニッククレーンで魚道近くに降ろす



人力で施設を魚道入り口に運び



施設を入り口下に仮置きをする



施設を単管パイプとワイヤロープで固定



施設の中にコンクリートと砂袋を入れる



魚道上流に砂袋と板を置き流入量を調整

● 4月3日(水) / 菅間堰下流の魚類相調査

水温 / 12.5℃

従事者 / 金澤

四つ手網で調査したが、魚を採捕できなかった。

● 4月7日(日) / 菅間堰下流の遡上補助施設の管

理作業と菅間堰下流の魚類相調査

水量 / 濁水 天候 / 曇り

水温 / 15.6℃

作業時間 / 9:00~17:00

従事者 / 千葉、山本(悦)、鈴木、金澤

設置した遡上補助施設が越流しづらい状態が続いていたので、中にビ

ニールシートを敷き、水漏れ防止作業を行った。濁水状態が続き、水がオーバーフローする状態にはならなかったが、平水時には施設に水が溜まる状態になるようにした。

四つ手網で調査したが、魚を採捕できなかった。



水漏れを防ぐためビニールシートを敷く



施設内に重石の素材を置き直す

● 4月13日(土)・19日(金) /

菅間堰遡上補助施設補修作業

13日 水量 / 平水 天候 / 曇り

作業時間 / 11:00~16:30

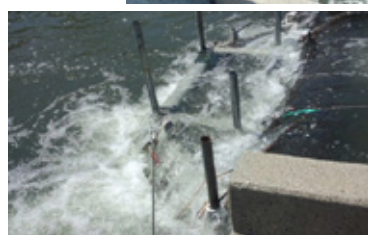
19日 水量 / 濁水 天候 / 曇り

作業時間 / 10:00~15:00

従事者 / 山本(悦)

設置した遡上補助施設の水漏れを防ぐため、隙間を埋める補修作業を行い、施設に貯留・水が越流する状態にした。

13日の施設の越流状況。平水状況のため施設に水が溜まっている



19日の作業前(上)と作業後(下)の施設の貯留・越流状況。魚が遡上できる状態になった

● 4月16日(火)・17日(水) / 菅間堰下流

の魚類相調査 従事者 / 金澤

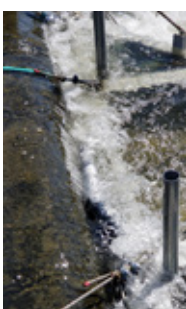
水量 / 平水 水温 / 16.6℃

菅間堰下流で四つ手網を1網使用し、魚類相を調査した。遡上補助施設は、中に敷いたブルーシートが捲れて、遡上しづらい状態になった。29尾のオイカワを捕獲。

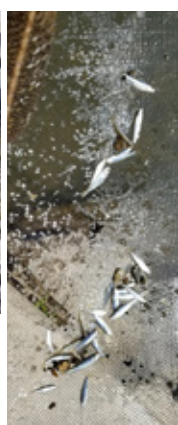
● 4月17日(水) / 菅間堰下流の魚類相調査

水量 / 平水 水温 / 16.1℃

四つ手網で調査。魚を採捕できなかった。



16日の遡上補助施設の流下状態と捕獲した多数のオイカワ



17日の施設の越流状況と四つ手網での調査

● 4月20日(土)

菅間堰下流での魚類相調査 従事者/金澤

水温/ 19.4℃

堰下流で四つ手網を1網使用し、魚類相の調査を行ない、オイカワ15尾を採捕した。

● 4月22日(月)

菅間堰下流での魚類相調査 従事者/金澤

渇水のため魚道に水が流れていなかった。

● 4月25日(木)

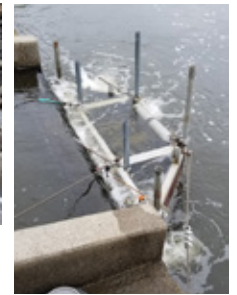
菅間堰下流での魚類相調査 従事者/金澤

水量/平水 水温/ 21.2℃

堰下流で四つ手網を1網使用し、魚類相の調査を行った。



25日の施設の流量状況と四手網での調査



● 4月28日(日)/浅間堰遡上補助施設の設置作業

及び菅間堰での魚類相調査

天候/晴れ 水温/ 16.5℃

作業時間/ 12:00~17:00

従事者/浅井、金澤、山本(悦)、鈴木

この日予定していた入間川での標識作業を延期したので、昨年と同様、浅間堰左岸に設置された遡上補助施設の上流側に、木製の3段のプールを作り、単管パイプで固定する作業を行った。浅間堰に堰板を入れ、本格取水が始まる5月15日以降に備えて、左岸側の堤体の越流時に発生する約30cmの落差を解消するための設置作業である。補助施設の設置期間は、5月末まで。施設の設置については、名細土地改良区の詳細を得た。

菅間堰では、四つ手網1網を使って魚類相の調査。オイカワを1尾採捕した。



左岸側の魚道の上流に単管パイプと木材を使ってプールを作る作業を行う



増水時に活かす遡上補助施設が完成



菅間堰の魚道入り口での魚類調査

● 4月29日(土)/菅間堰の魚類相調査

水量/平水

従事者/金澤

堰下流で四つ手網を1網使用し、魚類相の調査を行ったが、採捕できなかった。

● 5月1日(水)/菅間堰の魚類相調査

水量/平水 水温/ 18.7℃

従事者/金澤

堰下流で調査。オイカワ4尾、スゴモロコ8尾、ナマズ1尾を採捕した。

● 5月2日(木)/菅間堰の魚類相調査

水量/平水 天候/晴れ

作業時間/ 9:00~17:00

従事者/金澤、佐藤(龍)、鈴木

四つ手網を3網使って、魚道下で魚類相の調査を実施。稚アユの遡上は確認できなかったが、オイカワ2尾、スゴモロコ1尾の他、ブルーギル3尾、コクチバス1尾を採捕した。

魚道は増水で遡上できる状況ではなかった



堰下に四つ手網を3網並べて調査を行った。

● 5月3日(土)／菅間堰の魚類相調査

水量／平水 水温／ 19.8℃

従事者／金澤

四つ手網を使って堰下で魚類相の調査を行ない、全長 60mmの稚アユ 1 尾を採捕した。

● 5月4日(土)／菅間堰の魚類相調査

水量／平水 天候／晴れのち雷雨

作業時間／ 9:00～16:00

従事者／梅澤、鈴木

四つ手網を 2 網使って堰下で魚類相の調査を行った。捕獲できたのはスゴモロコ 3 尾だけだった。16:00 頃天気が急変し、雷雨が発生したため、調査を終了した。



魚道入口脇で、四つ手網で調査を行った。写真上は採捕したスゴモロコ。

平水で、遡上補助施設（上）は適度に越流していた

● 5月5日(日)／菅間堰の魚類相調査

水量／増水 水温／ 20.5℃

従事者／金澤

四つ手網を使って堰下で魚類相調査を行った。全長 60mmの稚アユ 1 尾を採捕した他、オイカワ 3 尾、ブルーギル 1 尾を捕獲した。



増水で白い泡が立ち、稚魚が遡上するには困難な状態だった

● 5月7日(火)／菅間堰の魚類相調査

水量／平水 天候／晴れ 水温／ 20℃

調査・作業時間／ 10:30～17:00

従事者／佐藤(康)

四手網 2 網を使って、魚道の入り口周辺で調査を行った。この日は稚アユ 2 尾を捕獲した。数は少ないが、堰下流まで稚アユが来ていることを確認した。他に目視でメダカ、カワリヌマエビを確認。



平水になり、魚道は遡上しやすい状態に



この日堰下で採捕した 2 尾の天然遡上の稚アユ

● 5月11日(土)／菅間堰の魚類相調査

水量／渇水 水温／ 20.7℃

従事者／金澤

四つ手網を使って堰下で魚類相調査を行ない、スゴモロコを 15 尾捕獲した。

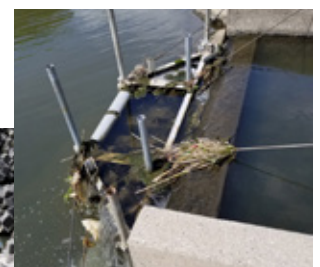
渇水のため遡上補助施設からの越流がなくなっていた

● 5月15日(水)／菅間堰の魚類相調査

水量／渇水 水温／ 19.5℃

従事者／金澤

四つ手網を使って堰下で魚類相調査を行ない、コクチバスの稚魚を 5 尾捕獲した。



● 5月26日(日)／菅間堰下流の遡上補助施設の管理作業
 水量／平水 天候／晴れ
 作業時間／
 従事者／山本（悦）

増水により、遡上補助施設を留めていたワイヤーが外れ、下流に流された。そのため施設を取り上げて回収した。



ワイヤーロープが一部生きていて、下流部にとどまっていたため回収することができた



● 6月10日(月)／浅間堰遡上補助施設の管理作業・遡上効果調査
 水量／増水 天候／曇り
 作業・調査時間／
 従事者／金澤

前日までの増水で、設置した施設に引っかかった大量の流木や流下したアシなどの草類を取り除いた。



施設の出口に溜まった流下草木。除いた後の遡上補助施設

● 6月11日(火)／浅間堰遡上補助施設の管理作業・遡上効果調査
 水量／増水 天候／曇り
 作業・調査時間／
 従事者／金澤

直前までの降雨による増水で、再度流下したアシ等で施設の出口が塞がったため取り除く作業を行なった。



施設出口の単管パイプに引っかかって出口を塞いだ流下したアシ類



●菅間堰・浅間堰の遡上補助施設の設置作業及び菅間堰下の魚類相調査のまとめ

2018年度に菅間堰と浅間堰に遡上効果を上げるための仮設の遡上補助施設を設置したが、2019年度は改善した施設を設置した。前述したように設置については、堰の所有者である荒川右岸用排水土地改良区と名細水利組合の了解を得るとともに、荒川上流河川事務所の許可を得て実施した。

菅間堰の遡上補助施設については、強度と固定法とプールの大きさに配慮しながら製作した。施設の重量が重くなったため、ユニッククレーンを使って魚道近くに降ろすことになった。設置後、2回水漏れを防ぐための改修作業を行なった。魚道の上流側には、昨年と同様に魚道への流入量を減らすため遮水板を置いた。

浅間堰については、昨年度入れたままだった土砂吐けの堰板を5月15日まで外してもうのように水利組合に要請し、了解しても

らった。堰中央に堰板が入り、取水が始まった以降遡上ができるように、単管パイプと木材を使って仮設のプールを作った。増水時にパイプに流木やアシが絡み、管理作業が大変であった。

今年は、荒川でのアユの遡上数が極めて少なかった影響を受けて、菅間堰下流での捕獲数も4尾と少なかった。その他、スゴモロコや特定外来生物のコクチバスやブルーギルなどの魚の捕獲数も昨年と比較すると少なかった。

	4/16	4/20	4/25	4/28	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/11	5/15	合計
アユ							1	2	1			4
スゴモロコ					8	1		3		15		27
オイカワ	29	15	2	1	4	2			3			56
コクチバス			1			1					5	7
ブルーギル						3			1			4
ナマズ					1							1
メダカ								1				1

3. 田島屋堰(入間川)下流及び中山堰(越辺川)下流での標識アユの放流作業と遡上効果調査

◎ 4月2日(火)／標識放流会場の下見・準備作業

活動時間／活動 10:00～15:00

従事者／木内、鈴木

標識放流作業予定地である田島屋堰下流の現地検分を行なった。検分の結果、数カ所の候補地の内、堰下流にある砂礫地が、近くに駐車場もあり最適地と判断して、当地を作業地として決定した。車止めのポールがあったため、管理者である県の川越県土整備事務所に行き、一時占用許可の申請書を提出し、実施に向け準備を進めた。

駐車場の確保と作業面から決めた田島屋堰下流と車止めを移動して活魚運搬車の侵入が可能にした



◎ 4月26日(金)／田島屋堰下流で作業会場の整備

天候／曇り

作業時間／ 13:00～17:30

従事者／浅井、木内、佐藤(英)、山本(悦)、山本(実)

予定していた入間川での標識作業は、稚アユの確保ができなため5月5日に延期をしたが、現地での作業環境を整えるため、草刈りやルート作りを行った。その後、浅間堰に行き、魚道の状況を確認してきた。



会場候補地の確認をした後、仮払い機で作業場へのアクセス道を作った



◎入間川・田島屋堰下流での稚アユの標識放流作業(5月17日)

水量／平水 天候／晴れ

作業時間／ 8:00～16:00

従事者／ 20名

標識放流数／ 2,837尾(入間川 1,789尾、越辺川 1,048尾)

標識放流調査用アユは、東京湾から遡上するアユが激減して確保できなかったため、埼玉西部漁協と武蔵漁協とともに、栃木県の業者が蓄養した稚アユ20kgを購入することになった。入間川の会場へは、入間漁協の活魚運搬車で搬送することにした。

8:30に業者の活魚運搬車が到着し、入間漁協の運搬車に積み替え、田島屋堰に向かった。田島屋堰下流の会場では、8:00にスタッフが集合し、生簀と会場作りを行った。9:00に活魚運搬車が到着し、直ちにバケツリレーで生け簀に稚アユを移した。田島屋堰の会場には20人が参集して標識作業を行った。今回確保した稚アユは1尾6gと大きく、作業は予

想以上に早く11時には終了した。

今回標識をつけた稚アユは2,897尾で、そのうち1,789尾を入間川に放流し、1,118尾を越辺川の出丸堰にコンテナやビニール袋に小分けして搬送した。搬送の途中でビニール袋が潰れ、70尾ほどのアユが死んだため、越辺川に放流できた標識アユは1,048尾ほどであった。入間川・越辺川両河川とも渇水のため魚道に水がなく、遡上できるのは纏まった雨が降ってからになると思われる。



埼玉西部漁協で、養殖業者の運搬車から入間漁協の活魚運搬車へ20kgの稚アユを移し替えた



到着した稚アユをバケツリレーで運ぶ



参加者に作業の意義と内容について説明



日差しを避けて、テント下で作業開始



稚アユに麻酔をかけ、作業を進める



入間川の田島屋堰の魚道下に放流



例年の海産のアユに比べると大型の養殖の稚アユ



入間川に放流した標識を付けたアユ



入間川の田島屋堰の魚道下に放流



越辺川に搬送するため、袋詰め作業を行う

●中山堰魚道での映像による遡上調査（5月25日～5月27日）

●5月25日(土) 11:54～15:48

水量／平水 水温／22.8℃

遡上確認数 1尾

魚道上部のスロープは遡上しながら、下流のプールに多数の魚影が確認できた。

●5/26(日) 9:20～15:54

水量／平水 水温／20.0℃

遡上確認数 84尾

この日も、アユと思われる細長い体系の魚が、頻繁に遡上する姿が見られた。正午前後に盛んに遡上して行った。

●5/27(月) 9:10～13:33

水量／平水 水温／24.3℃

遡上確認数 52尾

この日も、アユと思われる細長い体系の魚が、頻繁に遡上する姿が見られた。正午前後に盛んに遡上して行った。

従事者／金澤



5月25日、新設された魚道出口にビデオカメラを設置して遡上調査を実施



堰の下流で捕獲したコクチバスの内容物を調査、アユの捕食を調べた

25日に続き魚道出口にビデオカメラを設置して査を実施



4. 入間川田島屋堰、豊水橋、笹井堰の魚道の遡上効果調査

(6月1日～10月31日)

●6月1日(土) 矢嵐堰

水量／平水 天候／晴れ

調査時間／8:00～

従事者／金澤、佐藤康

入間漁協の友釣り解禁に合わせて、遡上可能な最上流部の矢嵐堰の下流で、友釣りによる調査を実施。

漁協が放流したと思われるアブラビレのあるアユ2尾を捕獲したが、標識アユは採捕できなかった。



矢嵐堰下流の瀬での友釣りでの調査



調査のために購入した凹アユ

●7月21日(日) 川越橋・寺山堰

水量／増水 天候／曇り

調査時間／11:00～13:00

従事者／金澤

水量多く、寺山堰下流は踏査が危険な水位、堰下のポイントでアユ5尾採捕した。全長220mmが3尾、200mmが1尾、150mm1尾で、全てアブラビレがある。小型サイズは東京湾からの天然遡上、220mmは入間漁協の放流ものが降下した可能性がある。



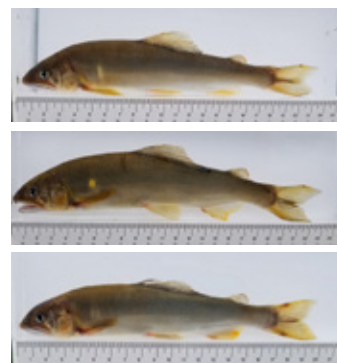
増水していた川越橋上流の瀬



捕獲したコクチバス



アユを5尾を捕獲した寺山堰魚道の下流の瀬



寺山堰で捕獲したアユ

●7月22日(月) 川越橋上下流

水量／増水 天候／曇り

調査時間／9:00～10:30

従事者／金澤

アユのハミ跡なし。標識アユの放流後の降下状況を把握するために調査。水量多く、アユは採捕できなかった。

●7月23日(火) 豊水橋床固め工

水量／増水 天候／曇り

調査時間／12:00～14:00

従事者／金澤

友釣りでの調査を実施。ハミ跡は確認できなかったが、200mmのアユ1尾が釣れた。しかし標識アユではなかった。



調査した豊水橋の魚道下流

●浅間堰に設置した遡上補助施設についての映像での調査 (6月10日～22日)

●6月10日(月) 水量／増水 従事者／金澤

調査時間／10:16～13:49

増水で、遡上する魚は確認できなかった。

●6月14日(金) 水量／増水

調査時間／11:50～14:30

体高の高い魚が1尾ジャンプして遡上していくの

を確認した。

●6月19日(水) 水量／増水

調査時間／14:00～15:00

●6月22日(土) 水量／増水

調査時間／8:55～12:10

増水で、遡上する魚は確認できなかった。

● 8月1日(水) 豊水橋床固め工

水量／平水 天候／晴れ

調査時間／ 12:00～15:00

従事者／浅井、梅沢、金澤

入間漁協のアユの投網解禁に合わせて、豊水橋の床固め工下流で調査を行なった。昨年もいた組合員

が1名投網を打ちに来ていた。人出はこの4名。4名でアユ2尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった。捕獲した2尾はともに全長170mmだった。

標識アユの捕獲情報を得るためにの看板を入間川の堰等に設置した。設置した場所は、漁協のおとりアユ販売店、矢嵐堰、中橋、豊水橋、田島屋堰。



床固め工での調査の様子と捕獲したアユ



豊水橋に設置した情報を求める看板



放流した田島屋堰上流に看板を設置



圏央道上流に看板を設置



矢嵐堰下流の入間漁協の小屋の前に設置

● 8月6日(火) 霞川との合流点

水量／平水 天候／晴れ

作業時間／ 9:00～16:00

従事者／金澤

入間川と霞川合流の下流で調査を行なった。標識放流した田島屋堰下流から約500mである。そこで、220mmから160mmのアユを合計9尾捕獲した。その中に、全長210mmの標識アユが1尾混じっていた。入間川での標識アユの初確認となった。



合流点下流で捕れたアユと調査時の投網に入った群れていたアユ



全長210mmに育った標識アユ

● 8月8日(木) 霞川との合流点

水量／平水 天候／晴れ

作業時間／ 9:00～15:00

従事者／金澤

入間川と霞川合流の下流で再度調査を実施した。そこで、245mmから190mmのアユを9尾捕獲できたが、今回もその中に標識アユが、1尾いた。標識アユの全長は200mmだった。



調査した霞川との合流点下流(右)と当日捕れた全アユ(左)



捕れた全長200mmの標識アユ

● 8月15日(木) 霞川との合流点

水量／増水 天候／雨

作業時間／ 9:00~15:00

従事者／金澤

降雨の中、再び入間川と霞川の合流で調査。増水で濁っていたが、合流まで右岸で調査を行なった。全長 200mm から 160mm の 6 尾のアユを捕獲、標識アユ 2 尾を再捕した。標識アユの全長は 190mm、200mm。



当日捕れた全アユ



調査した霞川との合流点の右岸側



捕れた全長 190 mm と 200 mm の標識アユ

● 8月16日(金) 豊水橋

水量／増水 天候／

調査時間／ 10:00~13:00

従事者／金澤

豊水橋床固め工の下流で調査。4 尾のアユを捕獲した。そのうち 1 尾が標識アユだった。標識アユの全長 200mm。



捕獲した全アユ



捕獲した全長 200mm の標識アユ

標識アユ及びアユ捕獲についての情報

情報提供／山崎広典

8月17日(土) 入間川大橋と狭山環状有料道路橋の中間地点(放流場所の下流)で、投網にて全長 260mm のアブラビレが切除されたアユを捕獲した。



情報提供を受けた標識アユ

● 8月26日(月) 霞川との合流点

水量／やや増水

調査時間／ 9:00~12:00

従事者／浅井、金澤

合流点下流で蝶を行なったが、アユは捕獲できなかった。

● 8月30日(金) 寺山堰

水量／やや増水 天候／

調査時間／ 9:00~12:00

従事者／浅井、佐藤康、金澤

放流場所の下流にある寺山堰の下流で、下った標識アユの生息調査を行なった。12 尾のアユを捕獲したが、その中に 1 尾の標識アユが混じっていた。標識アユの全長は 210mm だった。



捕獲した全長 21 cm の標識アユ

寺山堰下流での調査の様子

● 9月12日(木) 豊水橋床固め工

水量／ 天候／

調査時間／ 9:00~12:00

従事者／金澤

アユ 1 尾を捕獲。標識アユは再捕できなかった。



捕獲したアユ

●9月22日(木) 寺山堰、矢嵐堰

水量／ 天候／

調査時間／ 9:00~15:00

従事者／金澤

寺山堰下流で投網を使い罔アユを5尾捕獲。アユは皆サビていた。午後矢嵐席に向かい、友釣りで遡上調査を行なった。アユ2尾を捕獲したが、標識アユはいなかった。



寺山堰下流で捕獲したサビたアユ

矢嵐堰下流で友釣りで捕獲したアユ

●9月29日(日) 圏央道高架下流

水量／ 天候／

調査時間／

従事者／金澤

高架下流で、友釣りにて調査。アユ1尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった。



捕獲したアユ

●9月30日(月) 圏央道高架上流

水量／ 天候／

調査時間／

従事者／金澤

高架の上流側で、友釣りにて調査。アユ2尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった。



捕獲したアユ

●入間川での遡上効果調査のまとめ

今年は前述のように、標識用のアユとして天然遡上のアユを確保できず、養殖のアユしか確保できなかった。そのため標識放流したアユが、田島屋堰の魚道を遡上して上流に向かうか、心配されるところもあった。

昨年と同様に調査対象地域は、飯能市にある矢嵐堰下流とし、入間川の友釣り解禁に合わせ調査を行なったが、放流から調査まで期間が短か過ぎたこともあり、標識アユは再捕できなかった。

6月中旬に4日間、遡上補助施設を設置した浅間堰の魚道で、映像による遡上調査を行なった。結果としては、増水状況が続いたこともあり、1尾の遡上確認にとどまった。

7月23日に、放流地点から約1.4km上流にある豊水橋の床固め工の下流で、友釣りによる調査を行なったが、標識アユは再捕できなかった。

8月1日の入間漁協の管理区間の投網解禁に合わせて、投網解禁の最上流部の豊水橋下流で調査したが、標識アユは取れなかった。

その後、8月6日、8日、15日に放流場所から約

500 m上流の霞川との合流点下流で調査したところ、4尾の標識アユを再捕した。合流点は田島屋堰の上流にあり、堰の魚道を遡上したことが確認できた。

8月16日には、豊水橋床固め工の下流でも標識アユ1尾を再捕した。

8月17日に投網の愛好者から、入間川大橋と狭山環状有料道路橋の中間地点で標識アユを捕獲したとの情報が寄せられた。その地点は、放流場所から約2km下流になるので、そこまで下った個体が出たことが分かった。8月30日には、さらに下流の寺山堰の下流で1尾の標識アユを再捕した。約10km下ったことになる。

9月29日、30日には、調査対象魚道としては最上流部となる笹井堰の魚道の上流部にあたる圏央道の高架と中橋との間で、友釣りでの調査を行なったが、標識アユは再捕できなかった。

10月12日からは、入間漁協による友釣り区間での投網漁を解禁する特別解禁が、圏央道の高架と中橋との間で実施されるため調査を予定していたが、台風が連続して入間川流域を襲来したため、10月

の調査は、断念した。

今年度の入間川での調査結果は、放流場所から田島屋堰の魚道を上った500m上流で4尾、さらに900m上流で、1尾の標識アユの遡上を確認することができた。放流場所から下った2個体も確認した。

昨年、捕獲情報を提供していただいた投網同好会の人達からの情報は、高齢化で活動ができなくなったということで、今年は提供いただけなかった。また、10月は台風の影響で調査ができず、そのため、再捕率は0.4%と多くはなかった。



矢風堰下流の友釣りでの調査



標識アユを4尾再捕した霞川との合流点下流

2019年度 標識アユ調査表①入間川

入間川・田島屋堰、豊水橋、笹井堰の魚道の遡上効果調査(6月1日～10月31日)

調査日	時間	調査地点	調査方	捕獲確認 アユ数	標識 アユ数	調査状況	調査者
6/1(金)	5:00～	矢風堰～ 西武線鉄橋	友釣り	2	0	解禁とともにオトリ鮎を購入して2名で調査。アユは捕獲できなかった	浅井、金澤、鈴木
7/1(日)	11:00～	寺山堰下流	投網	5	0	武蔵漁協管内で調査。5尾のアユを捕獲したが、標識アユはいなかった	金澤
7/22(月)	9:00～	川越橋上流	投網	0	0	増水のためアユは捕獲できなかった	
7/23(火)	12:00～	豊水橋下流	友釣り	1	0	全長210mmのアユ1尾を捕獲。標識アユは再捕できなかった	
8/1(水)	12:00～	豊水橋下流	投網	2	0	全長170mmのアユ2尾を捕獲。標識アユは再捕できなかった	浅井、梅沢、金澤
8/6(火)	9:00～	霞川合流点下流	投網	9	1	全長160～220mmのアユを合計9尾捕獲。その中に、全長210mmの標識アユが1尾混じっていた	金澤
8/8(木)	9:00～	霞川合流点下流	投網	9	1	全長190～245mmのアユを9尾捕獲。その中に、全長200mmの標識アユが1尾いた	
8/15(木)	9:00～	霞川合流点下流	投網	6	2	全長160～200mmのアユを合計6尾捕獲。その中に、全長190mm、210mmの標識アユが2尾いた	
8/16(金)	9:00～	豊水橋下流	投網	4	1	4尾のアユ捕獲。全長200mmの標識アユ1尾を再捕した	山崎広典
8/17(土)		狭山大橋下流	情報提供	—	1	放流場所下流の狭山大橋で、全長260mmの標識アユを捕獲したとの情報	
8/26(月)	9:00～	霞川合流点下流	投網	0	0	アユは捕獲できなかった	浅井、金澤
8/30(金)	9:00～	寺山堰下流	投網	12	1	12尾のアユを捕獲したが、その中に全長210mmの標識アユが1尾いた	浅井、梅沢、金澤
9/12(木)	9:00～	豊水橋下流	投網	1	0	アユ1尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった	金澤
9/22(日)	9:00～	寺山堰下流	投網	5	0	アユ5尾を捕獲したが、標識アユはいなかった	
	12:00～	矢風堰下流	友釣り	2	0	アユ2尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった	
9/29(日)	9:00～	圏央道高架下流	友釣り	1	0	アユ1尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった	
9/30(月)	9:00～	圏央道高架上流	友釣り	2	0	アユ2尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった	
合 計				61	7		

5. 越辺川の中山堰に新設された魚道の遡上効果調査

(6月1日～9月13日)

● 7月1日(月) 都幾川 矢来堰

水量／やや増水 天候／曇り

調査時間／ 12:00～17:00

従事者／浅井、金澤

水量多かったが、堰から例年アユが捕獲できた約500 m下流の瀬まで下って、調査を行なった。しかし今年はアユが居る気配なく、オイカワなどの雑魚の捕獲数も少なかった。



蛇籠の堰下流で調査



捕獲したコクチバス

● 7月2日(火) 槻川 二瀬橋

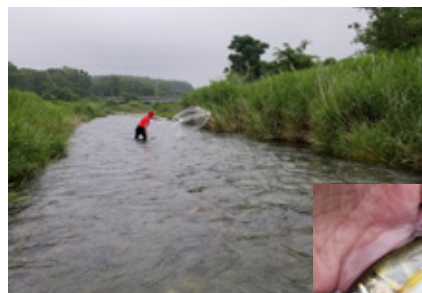
水量／やや増水 天候／

調査時間／ 9:00～16:00

従事者／浅井、金澤

午前中、都幾川と槻川合流点で調査。水量が多かったが、漁協が放流したアユ1尾を採集した。

午後、長楽堰、中山堰、出丸堰下流で調査を行おうと思ったが水量が多かったため断念した。



都幾川との合流点上流の槻川での調査の様子



捕獲したアユ

● 7月30日(火) 越辺川 長楽堰、中山堰、島田橋

水量／やや増水 天候／

調査時間／ 9:00～14:00

従事者／金澤

長楽堰下流へは道がなく、調査が出来なかった。10時に中山堰に移動。水量が多く、川を渡れないため、右岸側を投網で調査した。12時坂戸市の株木堰に移動。堰下流まで投網調査を行なったが、水量多く、両場所でもアユは捕獲できなかった。



増水している中山堰と右岸側に新たに設置された魚道



増水している島田橋
アユは捕れなかった

● 8月1日(木) 高麗川 吾野

水量／平水 天候／

調査時間／ 8:00～9:30

従事者／金澤

埼玉西部漁協の投網解禁に合わせて上流側で調査。アユ13尾を捕獲したが、標識アユはいなかった。



● 8月6日(火) 高麗川 中里堰

水量／平水 天候／

調査時間／

従事者／金澤

アユは捕獲できなかった

● 8月9日(金) 高麗川 中里堰

水量／平水 天候／

調査時間／

従事者／金澤

アユは捕獲できなかった

● 8月2日(金) 高麗川 吾野

水量／平水 天候／

調査時間／

従事者／梅澤、金澤

アユ12尾を捕獲したが、標識アユはいなかった。



● 8月10日(土)／都幾川 二瀬橋

水量／渇水 天候／晴れ

参加者総数／ 77名(大人29名、子ども33名、
スタッフ15名)

調査時間／ 7:30~14:00

都幾川会場(8/10)、高麗川会場(8/18)、越辺川会場(9/8)の3会場を掲載したチラシを、関係する環境団体と個人に、概ね70枚を郵送するとともに、HP及FBで広報し、参加者を募った。また、運営委員各人が知り合い等に呼び掛けた。

7月27日(土)、現地の草刈りを3人で実施。

前日の8月9日(金)17:10から、3人にて高坂倉庫で資材の積み込みを行い、10日会場に搬送した。

8月10日(土)、心配された台風は到来することなく、猛暑だったが、晴天に恵まれ、開催できた。

7:30にスタッフが集合してテント張り等の会場設営を行った。8:00からミーティングを行い、プログラム、役割分担を確認し、瀬張り網の設置等のアユ漁体験及び川遊びの会場作りを実施した。

9:00から、受付を済ませた子どもから、順次ライフジャケットを着用してもらった。

9:30、参加者にイベントの趣旨、安全管理、プ

ログラムの説明を行い、イベントの共有化を図った。

親子60数名の一般参加者には、全員参加で下流から魚を追い詰めていく地曳網体験、タモ網を使った「ガサガサ」の生き物捕りを体験してもらった。

途中、かき氷で水分補給をしてもらい、12:00頃から、ミニ水族館で捕った魚について、埼玉県魚類研究会の金澤光氏から子どもたちに説明を行った。

陸上でのお菓子捕り投網体験には、大勢の子どもたちが参加し、スタッフから丁寧な指導を受けて大漁、子どもたちの顔は嬉しそうに輝いた。

養殖アユ塩焼き、金澤氏が事前に捕った天然アユ塩焼き、捕った魚のから揚げの試食の「川魚食体験」は好評で、目指していた都幾川のアユは捕獲できなかったが、参加者は川の恵みを満喫された様子で終了となった。子どもたちには、昔からの川漁を体験し、川遊びの楽しさを知ってもらえたのではないかな。

《捕れた生き物》 オイカワ、カワムツ(国内外来種)、ウグイ、アブラハヤ、コクチバス(特定外来種)、カマツカ、ジュズカケハゼ、シマドジョウ、コイ(外来種)／ヒメミズカマキリ、コオニヤンマ、ギンヤンマ、サナエトンボの仲間、カワリヌマエビ(外来種)、タイワンシジミ(外来種)



会場に設置した受付用テント



参加者へ安全管理、プログラムの説明



上流の瀬張り網に向かい網を引く参加者



瀬張り網と曳網の間隔を狭めたところで投網とタモ網を使い魚を捕っ手もらった



タモ網を使ってガサガサでの生き物捕り



水槽に集めた捕獲した魚たち



捕れた生き物をミニ水族館で説明



子供たち対象の投網でのお菓子取り。毎年人気のイベント

● 8月18日(日)／高麗川 獅子岩橋

水量／平水 天候／曇りのち晴れ

参加者総数／68名(大人28名、子ども18名、
スタッフ22名)

調査時間／7:30～14:00

前日の8月17日(土)、会場周辺の草刈りを行なった。また、17:10から、3人で高坂倉庫において資材の積み込みを行い、18日に会場に搬送した。

不安定な天候が続く中、当日は朝からの曇り空に恵まれて、猛暑ではあったが、大勢の参加者があった。

7:30にスタッフが集合し、会場設営を行った。

8:00からミーティングを実施してプログラグラム、役割分担の確認を行なった。

9:00から、子どもたちに順次ライフジャケットの着用してもらった。昨今、自前のライフジャケットを持参する子どもが増えており、これは私たちの啓発の結果であるとともに、川の危険性を理解している親御さんが増えている証左と考えられる。

9:30にオリエンテーションでイベントの趣旨、安全管理、プログラムの説明を行なった。

一般参加者には、スタッフの指導のもと、全員参加して下流から獅子岩橋に向かって魚を追い詰めて

捕る地曳網体験を行なった。子どもたちにはタモ網を使い水性生物を捕る体験もしてもらった。

今回のイベントには十数名の中高生・大学生等が参加しており、いつものに増して活気があった。

12:00頃から、ミニ水族館を開催し、捕った魚について、金澤光氏から子どもたちに説明があった。面白い魚の話に子どもたちは聞き入っていた。

今回は、陸上でのお菓子捕り投網体験は、スタッフ・参加者ともども暑さによる疲れが感じられたので、中止にした。

養殖アユ、金澤氏が事前に捕った天然アユの塩焼き、本日の収穫物のから揚げの「川魚食体験」は好評で、参加者は川の恵みに舌鼓を打ち終了となった。

12:30頃閉会。金澤氏から、アユの天然遡上を目指して行なっている遡上効果調査、埼玉県による魚道設置の取り組みなどについての紹介があった。

《捕れた生物》オイカワ、カワムツ(国内外来種)、ウグイ、アユ(2尾)、カジカ、ギバチ、ジュズカケハゼ、シマドジョウ、ヨシノボリ／サワガニ、ミナミヌマエビ(国内外来種)、カワリヌマエビ(外来種)、ヌカエビ、オニヤンマのヤゴ、オナガサナエのヤゴ、アメリカザリガニ、カワニナ



参加者へ安全管理、プログラムの説明



子供たちが曳網を持って地曳網を開始



流れの速い瀬を慎重に網を引く参加者



瀬張り網と曳網の間隔を狭めたところで、投網とタモ網を使い魚を捕る



さらに網を狭めてタモ網で魚を捕る



地曳網の後水分補給のため休憩



捕れた小魚などを天ぷらにして試食



捕れた生物をミニ水族館で紹介

●8月26日(月) 都幾川 矢来堰・長楽堰

水量／平水 天候／

調査時間／ 12:00～16:00

従事者／浅井、金澤

12:00～14:00に矢来堰下流で調査したが、アユは捕獲できず、14:30～16:00に長楽用水堰の下流で調査したが、やはりアユは捕獲できなかった。



●8月30日(金) 都幾川 宮ヶ谷戸前堰

水量／平水 天候／

調査時間／ 12:00～:00

従事者／浅井、佐藤康、金澤

アユ3尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった。



●9月8日(日)／越辺川 石今橋

水量／平水 天候／晴れ(台風が接近中)

参加者総数／ 55名(大人13名、子ども13名、スタッフ29名)

調査時間／ 7:30～14:00

今回のイベントについては、FB・HPで再度広報した。鶴ヶ島市西児童館でポスターをみて参加した人もいた。

当地の草刈り作業が遅れていて、開催が危ぶまれる状態になったため、荒川上流河川事務所越辺川出張所に緊急要請して、9月7日に会場の草刈りを実施してもらった。また、17:10から3名で高坂倉庫で資材の積み込みを行い、当日に会場に搬送した。

台風到来が懸念されが、午前中は台風の影響がないという天気予報があり、天候の状態をみながら早めに終了するという方向で実施することになった。

参加者は少なめだったが、川遊びの大好きな我が子のために単身赴任先から参加した家族、「昨年参加して楽しかったから」と参加した家族、東京の中学校からの参加した少年たち、大勢の方々に支えられていることを実感する。

7:00にスタッフの第一グループが集合。越辺川の石今橋河川敷に通じる車止めを開け、「荒川流域ネットワーク」と「はとやま環境フォーラム」のメンバーで設営を行い、ミーティング前には完了した。

8:00からのミーティングでは、一日のプログラム、役割分担、台風到来のため、早めに終了することを確認した。

9:00から受付開始。今回は一般参加者の事前登録が少なかったが、数日前から参加希望のメールが

届いた。

参加した子供たちへのライフジャケットの着用指導は、今回は日本釣振興会埼玉支部の沢田さんにして頂いた。

9:30にオリエンテーションで、参加者にイベントの趣旨、安全管理、プログラムの説明を行った。

全員で上流側に瀬張り網を設置したあと、26名の参加者にスタッフのリードのもと、瀬張り網に向かい、全員で曳網を曳き、魚を追い詰めていく地曳網体験を行った。

地曳網のあと、子どもたちにはタモ網を使った`ガサガサ、生物捕りを体験してもらった。東京から参加した2名の中学生も、熱心に魚獲り作業に取り組んでいた。

途中、日差しが強く、かき氷で水分補給を行った。

12:00頃から、ミニ水族館を開催。今回も、金澤光氏から子どもたちに、捕った魚について説明を行った。子どもたちは、魚の話に聞き入っていた。台風が近づいているため、同時に平行して、陸上でのお菓子捕り投網体験を行なった。

養殖アユ、天然アユ(金澤氏が事前に米代川で捕獲したもの)の塩焼き、さらに本日捕れた小魚のから揚げの「川魚食体験」は今回も好評で、参加者は越辺川の恵みを満喫された様子で終了となった。

12:30頃台風の影響で雨が落ち始め、簡単に閉会の挨拶をして終了することにした。

《捕れた生物》オオクチバス、カワムツ、オイカワ、ジュズカケハゼ、ヒガシシマドジョウ、アユ(21cm2尾)ナマズ、コイ、ヌマガエル、アメリカザリガニ、タモロコ



会場に設置した受付用テント



参加者へ安全管理、プログラムの説明



参加者全員で上流側に瀬張り網を設置



参加者全員で引網を弾き始める



引網を曳きながら投網を打って魚を捕獲



上流に向かって引網を曳く参加者



投網でアユを捕獲する



曳網と瀬張り網の間を狭めていく



集めた魚を捕る子どもたち



水槽に集めた捕獲したアユ



捕れた生物をミニ水族館で説明



子どもを対象にした投網教室

●9月13日(金) 小畔川 南小畔川との合流点

水量／増水 天候／

調査時間／9:00～12:00

従事者／金澤

小畔川の関越自動車道高架下流の合流下流で調査。
アユは捕獲できなかった。



南小畔川（左側）との合流点

●越辺川水系での遡上効果調査のまとめ

越辺川では、昨年度新設された中山堰の魚道の効果調査を目的に実施したが、出丸堰上流からの放流数が1,048尾と少なかったため、標識アユの再捕はやや心配された。

武蔵漁協の投網解禁に合わせて7月1日に約8km

上流の矢来堰下流で、7月2日に約16km上流の都幾川と槻川の合流点上流で調査を行なったが、標識アユは再捕できなかった。

7月30日に越辺川の中山堰上流と株木堰下流で調査したが、増水のためアユは捕獲できなかった。

8月6日、9日に約9km上流の高麗川の中里堰上下流で調査したが、アユは捕獲できなかった。

8月10日に都幾川の二瀬橋、8月18日に高麗川の獅子岩橋で、地曳網の体験イベントを兼ねて調査を行なったが、標識アユは再捕できなかった。

8月26日に再び矢来堰で調査を実施したが、やはりアユは捕獲できなかった。

8月30日には、約20km上流の都幾川の宮ヶ谷戸前堰下流で調査したが、標識アユは再捕できなかった。

9月8日に越辺川の石今橋で地曳網の体験イベントを兼ねて調査を実施したが、やはり標識アユは再捕できなかった。

9月13日に、例年アユが捕獲できていた小畔川の南小畔川との合流点で調査を行なったが、アユは

捕獲できなかった。これが、最後の調査となった。

投網による調査では、標識アユは再捕できなかった。しかし、5月25日、26日、27日の3日間、中山堰に設置された新設魚道の出口で行なった映像での調査で、137尾の細長い体型の魚が遡上していくことを確認しているので、この魚道を有効に機能していることが分かった。

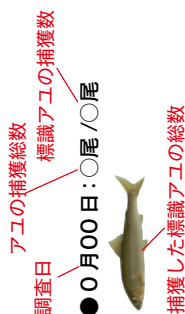


2019年度 標識アユ調査表②越辺川水系

越辺川・中山堰に新設された魚道に対する遡上効果調査(2019年7月1日～9月13日)

調査日	時間	河川名	調査地点	調査方	捕獲・確認アユ数	標識アユ数	調査状況	調査者
7/1(月)	12:00～	都幾川	矢来堰下流	投網	0	0	堰の約500m下流の瀬まで下って調査したが、アユは捕獲できなかった	浅井、金澤
7/2(火)	9:00～	槻川	二瀬橋上流	投網	1	0	合流点上流でアユ1尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった	浅井、金澤
7/30(火)	9:00～	越辺川	中山堰上流	投網	0	0	右岸側を投網で調査したが、アユを捕獲できなかった	金澤
			株木堰下流		0	0	島田橋から堰下流まで調査したが、アユを捕獲できなかった	
8/1(木)	8:00～	高麗川	吾野	投網	13	0	アユ13尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった	梅澤、金澤
8/2(金)	8:00～	高麗川	吾野	投網	12	0	アユ12尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった	
9/5(水)	9:00～	越辺川	春日橋	投網	9	0	全長160mm～200mmの9尾のアユを捕獲。標識アユは再捕できなかった	金澤
8/6(火)		高麗川	中里堰	投網	0	0	堰下流でアユは捕獲できなかった	金澤
8/9(金)		高麗川	中里堰	投網	0	0	堰下流でアユは捕獲できなかった	
8/10(土)	7:30～	都幾川	二瀬橋下流	投網・地曳網	0	0	イベントを兼ねて地曳網を使って調査を実施。アユは捕獲できなかった	参加者・スタッフ77名
8/19(日)	7:30～	高麗川	獅子岩橋下流	投網・地曳網	2	0	イベントを兼ねて調査を実施。アユを2尾捕獲したが、標識アユはいなかった	参加者・スタッフ68名
8/26(月)	12:00～	高麗川	矢来堰下流	投網	0	0	堰の約500m下流の瀬まで下って調査したが、アユは捕獲できなかった	浅井、金澤
	14:30～		長楽堰下流		0	0	堰下流で調査したが、アユは捕獲できなかった	
8/30(金)	12:00～	都幾川	宮ヶ谷戸前堰下流	投網	3	0	アユ3尾を捕獲したが、標識アユは再捕できなかった	浅井、梅澤、金澤
9/8(日)	7:30～	越辺川	石今橋上下流	投網・地曳網	3	0	イベントを兼ねて調査を実施。アユを3尾捕獲したが、標識アユはいなかった	参加者・スタッフ55名
9/13(金)	9:00～	小畔川	南小畔川合流点下流	投網	0	0	南小畔川との合流点下流で調査したが、アユは捕獲できなかった	金澤
合 計					34	0		

(放流量数 入間川 1,789 尾、越辺川 1,189 尾、合計 2,897 尾)





**ARAKAWA
BASIN
NETWORK**